

チャレンジ！！オープンガバナンス 2024 市民／学生応募用紙

自治体提示の地域課題名(注1)	No.	自治体提示の地域課題名	自治体名
		誰もが安心して暮らし続けられる地域共生社会を実現したい	長浜市
チームがつけたアイデア名(公開)(注2)	地域間でコミュニティの場を作ることのできる商業施設を設ける		

(注1) 地域課題名は、COG2024 サイトの中に記載してある応募自治体提示の地域課題名を記入してください。

(注2) アイデア名は各チームで独自にアイデアにふさわしい名前を付けてください。これは自治体提示の地域課題名とは別です。

1. 応募者情報 下の欄のうち選択肢項目は右のドロップダウンで選んでください

チーム名(公開)	究理ⅡL13 班		
チーム属性(公開)	1. 市民、2. 市民／学生混成、3. 学生	ドロップダウン選択→	3
チームメンバー数(公開)	4 名		
代表者(公開)	八田昂大		
メンバー(公開)	澤田耕志、保積若葉、山口野々香		

【注意書き】※ 必ず応募前にお読みください。

<応募の際のファイル名と送付先>

1. 応募の際は、ファイル名を COG2024_応募用紙_具体的チーム名_該当自治体名にして、COG2024 のウェブサイトにある【応募フォーム】からアップロードしてください。

<応募内容の公開>

2. アイデア名、チーム名、チーム属性、チームメンバー数、代表者および公開に同意したメンバー氏名(メンバー一覧ページを参照)、「アイデアの説明」は公開されます。
3. 公開条件について:
「アイデアの説明」でご記入いただく内容は、クリエイティブ・コモンズの CC BY(表示)4.0 国際ライセンスで、公開します。ただし、申請者からの要請がある場合には、CC BY-NC(表示—非営利)4.0 国際ライセンスで公開しますので、申請の際にその旨をお知らせください。いずれの場合もクレジットの付与対象は応募したチームの名称とします。
(具体的なライセンスの条件につきましては、<https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/legalcode.ja> および <https://creativecommons.org/licenses/by-nc/4.0/legalcode.ja> をご参照ください。また、クリエイティブ・コモンズの解説もあります。<https://creativecommons.jp/licenses/>)
4. 上記の公開は、内容を確認した上で行います。(例えば公序良俗に違反するもの、剽窃があるものなどは公開しません)
5. この応募内容のうち、「自治体との連携」は、非公開です。ただし、内容に優れ今後の参考になりうると判断したものは、公開審査後アドバイスの段階で相談の上公開することがあります。

<知的所有権等の取扱い>

6. 「アイデアの説明」中に、応募したチームで作成・撮影したものではない文章、写真、図画等を使用する場合、その知的所有権を侵害していないことを確認してください。具体的には、法令に従った引用をするか、知的所有権者の許諾を取得し、その旨を注として記載してください。「自治体との連携」中も同様をお願いします。
7. 「アイデアの説明」中に、人が写りこんでいる写真を使用している場合、使用している写真に写りこんでいる人の肖像権またはプライバシーを侵害していないことを確認してください。

アイデアの説明が肖像権・著作権等を侵害していないことを確認してください。OKなら右欄の○を選択 →

OK

<チームメンバー名簿:メンバー一覧ページ>

チームメンバーに関する情報を該当ページに記載して提出してください。(2. の扱いによる代表者氏名を除き、他のメンバーに関する情報は本人の同意があるものを除き COG 事務局からは非公開です。詳細は最終ページをご覧ください。)

アイデアの説明は(1)アイデアの内容(活動)、(2)アイデアの理由(なぜなら)、(3)実現までの流れ、の三項目あります。それぞれ書いてください。必要に応じて図表を入れていただいて結構です。

2. アイデアの説明（公開）

(1) アイデアの内容（公開）

(1) アイデアの内容（公開）

アイデアは、対象とする課題解決のために、どのような社会的活動（サービス）を行うのかを具体的に示してください。将来実現した場合に、新規性があり、実践したくなり、魅力的でわくわくするようなアイデアを求めます。その結果、課題が解決され、社会に良い変化をもたらすことが期待されます。**2 ページ以内**でご記入ください。

※応募チームとして解決したい課題のポイントを、以下にごく短く書いてください

＜解決したい課題のポイント＞

若者と高齢者のつながりとコミュニティの場が減っている

※以上の課題解決のために『何』をするアイデアか、それを『だれ』が『だれ』に対して『いつ』『どこで』『どのように』行うのか、受益者自身が主体的に関わる視点も視野に入れてわかりやすく書いてください。アイデアが具体的に実行される場面を想定し、説明をお願いします。

（参考）よいアイデアを生むには関連データの分析に加えてデザイン思考によるアイデアを利用する人への共感（使う人の立場になってみること）が大切です。

＜提案するアイデアの内容＞

現在の長浜市では若者の都会への流出や少子高齢化の影響により大変早いスピードで人口減少が進み、高齢者の割合が増えている。そのため以前のように街中で高齢者と若者が挨拶をするといったような会話をする光景は見られなくなっているように感じる。このことは孤独死などの社会問題を生みかねない。この問題を解決するために私たちは若者のIターン防止・高齢者と若者が共に過ごせるコミュニティの場の作ることに焦点を当てた。そしてわたしたち長浜の黒壁の商店街を利用して、大規模かつオープンな商業施設を設けて、ひとを集めながらも人と人とが関わり合える新しいコミュニティの場を作り続けることができるようにする。

またその商業施設には運動ができる施設や若者向けの施設・スーパーなどの生活において必要となる商業施設をそれぞれを設けながら、真ん中に広場などの子供から高齢者が同じ空間にいて、関わりを作ることができる施設をつくる。

--

2. アイデアの説明（公開）

(2) アイデアの理由（公開）

(2) アイデアの理由（公開）

次にアイデアを提案する理由（なぜ）について、それをサポートするデータを根拠として示しつつ2ページ以内で説明してください。ここではアイデアの必要性、効果を確認します。データとは、統計類などの数値データやアンケート・インタビュー・経験の記述、関連の計画、既存の施策などの定性データも広く含みます。データは出所を明らかにしてください。

※このアイデアを提案する理由（なぜ）を書いていきます。

※先に書いた『何を』『だれが』『だれに対して』『いつ』『どこで』『どのように』というアイデアの内容を支えるために、『なぜ』このアイデアが有効で、実現する意味があるのか』を、上記のデータを使ってわかりやすく説明します。

＜参考：以下のように理由を書いていきます＞

※根拠：このアイデアがなぜ必要であるか、またはなぜ有効だと考えるのか、その筋道を説明します。

※裏付け：その根拠を支えるために、統計データや報告書、事例などを使って補強します。さらに具体的なアイデアの効果についても、何らかのデータを使うと説得力が増すでしょう。（定性データを含めて歓迎）



・長浜市の現状

- ① 人口減少が著しく、若者が都心部への流出によって減少し、高齢者数が増加している
- ② ゲーム機やスマートフォンなどの機器の発達・普及により、子供の外出機会が減った



異なった世代間でのコミュニティの希薄化

- ③ 以前よりも長浜駅周辺の商店街が栄えていない



商店街を活用してコミュニティの希薄化問題解決に繋げたい

・コミュニティの希薄化がどのようなことに繋がってしまうのか

- ① 高齢者が孤独を感じる機会が増えてしまう（孤独死につながる可能性がある）
- ② 昔に起きたことや伝統が受け継がれにくくなる
- ③ 孤立化が起きる→様々な意見を取り入れることができなくなる



コミュニティの場を設けることが重要！！！！

このようなことから若者のＩターンを防ぎながらも高齢者と若者の異なった世代間のコミュニティの場を長浜駅周辺の商店街を活用した施設を設け問題解決に取り組みたい

0;l

(3) アイデア実現までの流れ(公開)

アイデアを**実現する主体**、アイデアの**実現に必要な資源(ヒト、モノ、カネ)**の大まかな規模とその現実的な調達方法、アイデアの**実現にいたる時間軸を含むプロセス**、実現の制度的制約がある場合にはその解決策を含め、アイデア実現までの大まかな流れについて、**2ページ以内**でご記入ください。ここでは実現可能性を確認します。

※アイデアに即した実現に向けての具体的な活動を上記のポイントに即して工夫して書いていきます

＜以下のように分けて書いていきます＞

1. **実現する主体**
2. **実現に必要な資源(ヒト、モノ、カネ)**の大まかな規模とその現実的な調達方法
3. **実現にいたる時間軸を含むプロセス**

1 実現する主体

SNS を活用してクラウドファンディングを行う

1 から商業施設を作るところを SNS であげながら、クラウドファンディングを募ることでバズりを狙いながら常に新しい人物にみられるからお金を得やすくなる



そのお金をシャッターが閉まっている店を買い占めて企業として誘致を行う

実現に必要な資源

- ・従業員数の確保
- ・様々な世代それぞれに好まれる店や施設の確保
- ・広場や公園のような様々な人が話したり、遊んだれできる場所の確保
- ・運営するための費用の確保

3 実現に至る時間軸を含むプロセス

現状長浜商店街には長浜らしさを持つ店や食べ歩きを行える店があるが一方でシャッターの閉じている店が多いことも現状である。そこでシャッターが閉じている店を誘致してくれる企業が買収を行なって、衣服を取り扱う店(若者に人気の古着屋などがあるとそこに来る人も増える)・習い事を行える場所・雑貨を取り扱う店などをそれぞれ配置して、店を5年サイクルで店を回していく(変化を持たせ続けると客足をいじることができる)また、人気のある店はそこから延長契約を行う。

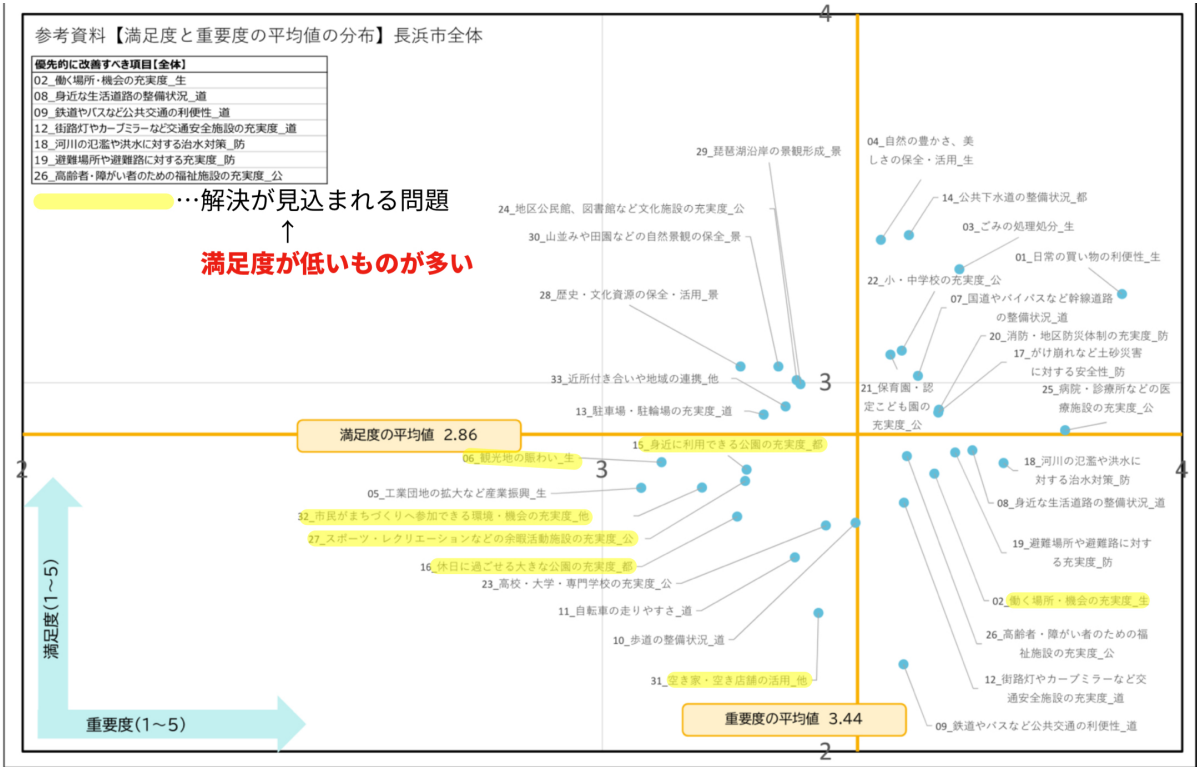
長浜商店街には広場のような開放的な施設がいくつかあることを活用してそこをバスケットコートや遊具などを設け子供などが遊ぶことができながらも高齢者や大人の人たちがリラックスできるスペースを設ける

比較的大きい広場でパトリックビューイングやナイトシネマなどのイベントを開催することで集客を集める

2. アイデアの説明（公開）

(2) アイデアの理由（公開）

		交通の便 が悪いから	買い物や 飲食など、日常 生活が不便だから	風習やし きたりなど、土地 柄になじめないから	文化・ス ポーツ施 設など、余暇活動 の場が充実してい ないから	希望する 職場や仕 事が無いから	医療・福 祉が充実 していないから	通勤・通 学に不便 だから	市外に家 族がいる から	子育て環 境が充実 していないから	教育環境 が充実し ていないから	家賃・土 地代が高 いから	その他
年齢別	18～24歳	26	15	11	2	17	0	11	4	2	4	0	9
	25～29歳	22	14	3	6	19	8	3	8	5	5	2	8
	30～34歳	18	16	10	20	8	8	2	4	6	8	0	2
	35～39歳	14	14	12	10	5	12	7	2	12	2	2	7
	40～44歳	17	19	8	8	8	14	6	3	8	3	0	6
	45～49歳	20	11	26	3	0	6	6	6	0	3	0	20
	50～54歳	23	9	27	5	0	9	9	5	0	5	0	9
	55～59歳	29	10	19	7	7	7	7	3	7	0	3	3
	60～64歳	27	15	15	9	6	6	3	9	0	3	3	6
	65～69歳	32	9	23	14	0	9	0	5	0	0	5	5
	70～74歳	21	17	13	17	4	8	4	4	4	0	0	8
	75歳以上	33	19	5	10	0	5	10	5	0	5	0	10



このように大規模商業施設を設けることは大きなコストを要するが、長浜商店街を活用することでコストを抑えながら長浜の魅力とコミュニティを一つにまとめた商業施設を設けることができる。